令和元年度　「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　土砂災害が起きた時にできること　」

石川県　能美市立辰口中学校　２年　川端（かわばた）　栞菜子（かなこ）

私が住んでいる和気町は、山が多く自然に囲まれている。そして田畑も多く、山にはめずらしい植物も生息するようなとてものどかで住みやすいところである。そんな住みやすい和気町だが、先日大雨が降って川の水があふれそうになり、近くにある田畑にまで被害をおよぼしそうになった。また、私の卒業した和気小学校の裏はすぐ山であり、その時に土砂災害の危険性があった。さらに、日本全国では大雨のためひどい土砂災害にあった地域もある。そこで私は土砂災害を防ぐ方法はなにか調べてみることにした。

一つ目は、砂防堰堤などの施設をつくることだ。これは、流れの急な川で大雨などにより水が増えると、水の力で川底や川岸の土砂が大量にけずられ、それが下流に運ばれて土砂災害を引き起こすのを防ぐためのものだ。

二つ目は、木のない山は雨などによって斜面がくずれる危険が大きいため植樹をすることだ。植樹をすることで、地表の土砂がくずれるのをおさえたりすることもある。だが、これだけで土砂災害は防ぐのは難しい。そこで、自分の命を守るためにはどうしたらよいのだろう？

私はある日の新聞で「自助・共助」という言葉を目にした。意味を調べてみると、自助は、自分で自分の身を助けること。他人の力を借りることなく、自分の力で切り抜けること。という意味だった。共助は、近隣で互いに助け合う。という意味だった。防ぎようのない土砂災害が起きた場合はこの「自助・共助」という意識を持って行動しなければいけないと考える。例えば、自助の視点では万が一にそなえてすぐに避難できるように避難グッズを用意しておく。私の家にも避難グッズを用意してある。このように、事前の準備はもしもの時に困らなくてすむからすごい大切なことだと思う。また、家族が離れている時に土砂災害が起こる可能性もある。そのような時でも自分で考えて避難しなくてはならない。だから、どこに避難するのかを家族で話し合って確認しておくことも大切なことだと思う。

共助の視点では、私の住む和気町は地域のつながりが強く、近所の人とは顔見知りである。地域の人たちはつねに私たちのことを見守ってくれている。だから、なにかあった時には互いに助け合うことができやすいと思う。もしも土砂災害が起きた時でも、声をかけ合いながらすばやく避難することができるはずだ。実際、防災訓練をしてみたらみんな避難をはやくすることができ、また高齢者にも声をかけながら避難をすることもできた。このような防災訓練は一度や二度やってもいざというときに対応できない。だから、くり返し訓練をしていつでもどこでも、その状況に合った行動をとれるようにならなければいけない。山が近くにある和気町だからこそ、くり返し防災訓練をするべきだと考える。

私の父は、防災士の資格を持っている。国造地区では防災士の集まりが何度か行われている。地域全体でも防災士を中心に防災意識を高めるような取り組みを行っている。これらは公助の視点だと分かった。自助・共助だけではなく、公助という考えからも私たちの命を守る仕組みが整っていることが大切だと思った。

私たちの住む和気町は、自然が多く住みやすい町だが、一方では山が真近にあり大雨が降った時に土砂災害の危険性が高い地域でもある。だからこそ、「自助・共助・公助」がとても大切になってくる。自分の力で避難をしたり、近所の方々と協力し合って避難したり、地域全体でも意識を高めたりなどをして万が一の土砂災害に備えて、準備をしておく必要がある。私は、土砂災害が起こらないことが一番だと思うが近年の異常気象にともない、起きる可能性は高くなっている。だから私も、日頃の備えをしっかりして自分にできることを考え、行動にうつしていこうと思う。